

平成28年度 関西中央高等学校学校評価

評価項目	年度重点目標	具体的方策・評価指標	自己評価	成果と課題（評価結果の分析）	改善方策等
(1)教務	成績不振者補習の充実に努める	定期考査前後における学習指導時間の確保と理解を促す指導内容の充実に図る。	A	定期考査前後に成績不振者を中心に理解を深める学習指導を実施した。	継続して実施していく。
(2)生徒指導	「創設のこころ」を礎として、豊かな人間性を養い、本校生としての自覚と誇りを持たせる	全校朝礼及び週初めのSHRで「創設のこころ」を唱和し、日常生活の中での実践を目指す。 「思いやりの心・マナーアップ運動」を通して、マナーの向上と他を思いやる心を養う。	A	毎月の全校朝礼では、生徒会長がリードしながら全校生徒が元気に唱和できた。各クラスにおいても週初めの唱和を実施した。 「思いやりの心・マナーアップ運動」では、生徒からすばらしい標語が集まり、啓蒙に役立った。	「創設のこころ」（本校建学の精神）である「徳」「知」「美」の日常生活の中での実践を具体的に確認できるシステムを考える。 「思いやりの心・マナーアップ運動」の活性化を目指して、生徒会とタイアップした取り組みを行う。
(3)進路指導	生徒一人ひとりの希望進路を保証するためのサポートを行う。進路ガイダンスや進路行事を通じて生徒の進路選択を促すとともに、生徒の到達学力および進路希望を把握し、その実現へ向けて適切なアドバイスをを行う。	1年次から3年次までをトータルに捉え、それぞれの学年の適切な時期にキャリアガイダンス、進路ガイダンスを行う。また、個別の学校説明会や大学・専門学校見学ツアーを実施する中で、一人ひとりにあった学校説明を行い進路選択の指針を与える。	A	3年生全員と進路面談を実施し、個々の進路希望を把握しながら進路指導を進めたが、途中で進路変更をしたものも多く、後手に回ることもあった。 計画的に進路ガイダンスや大学等見学ツアーを実施でき、生徒の進学意識が高まったように思われる。	次年度も進路部長面談を継続し、学年や担任の先生と連携して進路指導を進める。 今年度の反省を踏まえ、各学年でのガイダンス等も計画的に実施する。具体的に、進路に関して生徒に考えさせる時間をHRで確保する。
(4)人権教育	人間の尊厳を基本として、社会に存在する様々な人権問題の解決を目指し、個別の人権問題についての正しい理解と認識を培うとともに、人権尊重の実践的態度を育成する。	すべての教科・領域に人権教育を位置づけ教育活動全体を通じて人権教育を推進するとともに、人権教育講演会や人権教育ホームルームの充実に図り、積極的に参加し、実践できる内容を構築し展開する。	B	人権教育講演会や映画鑑賞、各学年ごと人権ホームルーム計画に基づき、学期ごとにテーマを設け、あらゆる人権問題に対して、実施することにより、一人ひとりが人権に対する正しい理解を認識することができるようになり、他者を思いやる心を持てるようになってきている。	次年度も、より充実したものにするための計画をたて、実施していきたい。
(5)文化活動	学校刊行物の編集を充実させる。	「きずな」の内容の充実に図る。	A	生徒からイラストを募集して挿絵として採用したりして充実している。	徳知美を意識しながら継続して更なる充実に図る。
(6)図書館教育	一般的な教養と広汎な知識を身につけさせる。	定期的に新しい資料を収集し、生徒が活用しやすいようにディスプレイする。	A	県内の他の図書館からテーマを決めて本を借り、ディスプレイしている。	継続して実施していく。
(7)健康教育	生徒の健康の保持増進を図り、心身共に健康で、安全な生活を送ろうとする態度を養成する。	保健室を訪れる生徒の身体的な不調の背景に目を向けることを通して、生徒の発する様々なサインに気づき、他の教員と連携を図り適切に対処していく。	B	色々な問題を抱える生徒一人ひとりに対応し受容的態で接し自立への援助に努めることができた。学校生活への不応や対人関係のトラブルなど生徒自ら解決出来るよう助言する。	健康に必要な知識や考え方を学び健康な体を作る意欲を育てる。コミュニケーション能力は「一朝一夕にしてならず」なので根気よく自己・他者理解を積み重ねていく。
(8)情報推進	学校情報デジタル管理の徹底。	校務の情報化を進め、作業効率を高める。 生徒情報を共有し、生徒の状況把握を周知徹底する。また、個人情報の管理を徹底する。	B A	従来からある成績処理や入試業務に関しては維持管理を続けている。 生徒情報に関しては、一括してデジタル管理をしている。セキュリティに関しても今のところ問題はない。	指導要録のデジタル化を進め、成績とのリンクをつける。
1年	基本的な生活習慣の確立	時間を守る、挨拶の励行、清掃美化の徹底を目標とし、社会や学校の規則を遵守させる指導に努める。	A	基本的な生活習慣は概ね確立されているが、クラスによっては挨拶の声が小さくなっていたり、チャイム着席が中途半端であったり、ロッカー上が整頓されていないなど、小さな課題もまだまだ多い。	挨拶日本一をまずは我々が再認識し、小さいことも言い続け、指導を徹底し、できるまで妥協しない。
2年	人間性の拡張	国際交流を通して異文化に触れることにより、日本文化の良さを知るとともに、国際視野を養い、自己の向上に努める。	B	海外への修学旅行を経験した結果、海外に興味を持つ生徒が増加。英語の重要性や日本文化のすばらしさにも気付いた。	学校間交流を改善し、大学ではなく同じ年代での交流ができるようにする。
3年	積極的・自主的な活動	進路実現のためには十分な準備が不可欠であることを自覚し、進路目標を具体的に決定し、その実現に向け自ら積極的に努力し、実現力を養う指導を行う。	A	進路ガイダンスなどを通して意識付けは十分にできた。また、放課後での学習を個別に対応することで個々の対応ができ、希望進路を実現させることができた。コースによって進路結果は違うが各コースの特色に応じた進路指導ができた。	現在の学力では十分な結果が得られたと思うが、今後は学習環境を整えることでさらに進路の幅を広げる必要がある。
特別進学コース	国公立・難関私立大学合格を目指した十分な学力をつける。	日々の授業及び中間塾での徹底した進路指導を通して、学力向上を目的とした教科指導を行う。 徹底した個別指導を行う。 水曜日7・8限は「ネット配信活用授業」による学習を2・3年生に実施する。	A	担任を中心とし個々の生徒の実態に応じた個別指導はできた。今後もさらに教員間の連携を図り、生徒の実態を把握し指導につなげていきたい。 ネット配信活用授業は、生徒にとっては向き不向きがあり効果は様々であった。しかし、学力向上のきっかけにもなるので今後も活用するように促していく。	教員間の連携を図り、生徒の実態に応じた徹底した個別指導を継続していく。
表現・情報コース	徹底した表現能力の充実に図る。	「表現ⅢⅢ」では、プロの演劇家による指導のもとに「演劇」を通して、社会で必要とされている表現力を養う。	A	表現では、発声の仕方や身体の使い方、舞台上での見せ方などを身につけ、一つの作品をつくるときに、授業を通して自分の意見を発言したり、他の意見を聞き入れ、クラスで協調した作品作りができた。	来年も継続して実施する。
スタンダードコース	確かな基礎学力を確実に身につける。	「学びなおし授業」や「朝学・小テスト」により、英語、数学、国語の「基礎学力を育成」し、学ぶ意欲を高め、「基礎学力の確立」を図る。	A	リメディアル授業として1年次で習熟度別クラスで実施した数学において成果が見られた。「朝学」の漢字・英単語小テストの実施により、基礎学力の育成と学習習慣の定着が見られた。3年次「朝学」に基礎学力養成ドリルを導入、進路実現において成果を得た。	リメディアル英語においても、1年次での習熟度別クラスを実施する。「朝学」の1、2年次漢字・英単語テスト実施による基礎学力のより定着・向上の方策、および、3年次ドリルのより有効な活用を考える。